

浜中社 関東ブロック大会実行委員会

2019年 8月号

関東ブロックだより

発行 浜中社関東ブロック大会研究チーム (担当 森中 田中良樹)

第2回全体研究会について

8月21日、大綱中学校で第2回全体研究会を行いました。大会テーマについて金沢中学校の井上先生から説明していただいた後で、各分野の指導案について検討をしました。

大会テーマ

「よりよい社会を実現する力を育む社会科学習」

～社会的な見方・考え方を働かせた深い学びをめざして～

「よりよい社会を実現する力」とは・・・

→価値観が多様化して、社会の変化が激しい現代社会において、さまざまな問題の解決を考え、探そうとする力。人間として、その問題とどう向き合い、その問題をどう捉えて、自分はどう考えるのか。自分自身が疑問に思ったことを粘り強く考えようとする力としました。

生徒に上記のような力をつけさせようとするならば、授業者がこれを実践しておく必要があるため、今回の研究では、各授業者が「何故、先生はその授業をするのか？何故、それを教えたいのか？」を徹底的に追究していくことが求められるでしょう。(先生の「こだわり」を大切にする)



「誰もが納得できる明確な答えを自分自身が持っているわけじゃないけれど、でも絶対に大事なことだと思っから、みんなと一緒に考えてみたい」という授業者の問題意識を、単元を構成する際の第一歩とします。また、ここで授業者が、問題意識を徹底的に追究するという事は、教師と教材との対話が成立すると言えるのではないのでしょうか？

「社会的な見方・考え方」とは

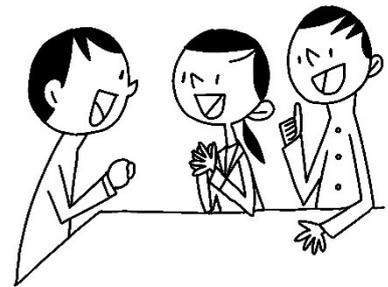
→学習指導要領に準拠します。

「深い学び」とは

→「主体的・対話的で深い学び」として捉えようと考えます。

「主体的」については「粘り強く」取り組めたかという点を重視していきたいです。

「対話的」については、協働的な活動(生徒同士の話し合いなど)に限らず、授業者が材とする対話(問題意識の追究)、授業者が生徒とする対話、生徒が材とする対話、なども含めて捉えます。



主体的・対話的で深い学びを検証する方法としては、生徒にじっくり考える時間をつくる、記述させるという方法をとりたいと思っています。

検討した指導案の単元名

【地理的分野】

「沖縄の海を守るために～九州地方における持続可能な開発～」石井先生（老松中）

「自然災害に対して私たちができることは何か～関東・東北豪雨に学ぶ～」石井先生（老松中）

「東京はなぜ日本の中心地になれたのか」稲童丸先生（日野南中）

「リニア中央新幹線は、人々の暮らしをより豊かに・幸せにするのか？」近藤先生（瀬谷中）

「10年後のタンザニアが自立するために～稲作分野における支援を考えよう～」新堀先生（都田中）

「アジアとオージー（オーストラリア人）とのかかわり」松本先生（いずみ野中）

【歴史的分野】

「奈良・平安時代は、女性が8割だった!？」相磯先生（中川中）

「あなたが北条義時なら、承久の乱後に後鳥羽上皇をどのように扱うのか？」佐々木先生（早渕中）

【公民的分野】

「健康で文化的な最低限度の生活～人が生きやすい社会ってどんな社会だろう～」今田先生（港中）

「SDGs達成に向け、私たちにできることを考え、行動しよう!」出村先生（西本郷中）



次回は各分科会での研究になります。日程が決まり次第、ご連絡いたします。ぜひ、楽しい授業のために、楽しく研究していきましょう!!ご参加お待ちしております。

連絡先（森中学校 761-2321 田中）